

出版会活動

◆「森鷗外と原田直次郎」を二月十五日より出版

明治の文豪 森鷗外と洋画家 原田直次郎の青春とその交流の軌跡を描く本書。青年軍医森鷗外が小説家森鷗外へと変身したのは、ミュンヘンで画学生原田直次郎に出会ったことがきっかけだった。若き鷗外のロマン主義的三部作『うたかたの記』『舞姫』『文づかひ』に込められた二人の青春の記憶と美術的教養を分析し、東京美術学校創立前後の洋画家がおかれた悲劇的狀況を語る本書の前半は、明治中期の美術と文学の理解に一石を投じるもの。



◆DVD「新曲『浦島』」を二月二十日六日より発売

明治の文豪、坪内逍遙が日本の古典『浦島太郎』を題材に書いた和洋折衷楽劇の台本「新曲浦島」は、当時絶賛を受

けたが、舞台化はとも困難だった。しかし、多彩なジャンルの教員・学生を擁する東京藝術大学音楽学部邦楽科が、洋楽系の教員・学生とコラボレーションし、世界初となる全三幕の上演を行い大変な話題となった。

本DVDには、坂東三津五郎が逍遙役で出演するなど人気を博した話題の公演が完全収録されている。



東京藝術大学出版会の出版物などは、藝大アートプラザおよびアマゾン（ネット販売）にて取り扱っております。詳しくは、藝大アートプラザ（☎050・5525・2102）

東京藝術大学創立二〇周年記念事業
募金にご寄附いただきました皆様
三月三十一日現在（敬称略・五十音順）

〔個人〕

磯貝紀枝 岡信孝則 梶川勝子
小町谷朝生 須賀善一 鈴木敏雄
田淵俊夫 外山雄三 中山靖子
畑中良輔 三木敬之 宮田亮平
雪山行二 和田宣司

〔企業・団体等〕

〔有〕 イシイエステート
〔株〕 河合楽器製作所 スズデン（株）
東京トヨペット（株） 中村工業（株）
〔有〕 パブリックアーツ（株） 遊美堂

受章・受賞

◆山村浩二教授の「カフカ 田舎医者」が各賞を総なめ

大学院映像研究科アニメーション専攻山村浩二教授の作品「カフカ 田舎医者」が次の各賞を受賞した。

五月一日、「シチュウットガルト国際トリックフィルム映画祭」グランプリ
五月七日、「国際アニメーション映画協会（A S I F A）公認映画祭 第七回アニメフェスト」カテゴリー第一位
五月八日、「MONSTORA 2008 第七回リスボン国際アニメーション映画祭」グランプリ

◆山村浩二教授が「MONSTORA 2008 第七回リスボン国際アニメーション映画祭」ONDA CURTA賞を受賞

五月八日、大学院映像研究科アニメーション専攻の山村浩二教授が「MONSTORA 2008 第七回リスボン国際アニメーション映画祭」に出品した作品「こどもの形而上学」で、ONDA CURTA賞を受賞した。

◆黒沢清教授が「第六十二回カンヌ国際映画祭ある視点部門」で審査員賞を受賞

五月二十四日、大学院映像研究科映画専攻黒沢清教授が「トウキョウソナタ」で第六十二回カンヌ国際映画祭ある視点部門の審査員賞を受賞した。

◆嶺貞子名誉教授が第十五回「信毎賞」を受賞

六月四日、嶺貞子名誉教授が、日本におけるイタリア歌曲の第一人者として国内外で広く活躍していることを評価され、第十五回信毎賞を受賞した。

◆増村紀郎教授が第十六回MOA岡田茂吉賞 工芸部門大賞を受賞

六月十一日、美術学部増村紀郎教授が漆芸に関するこれまでの活動を評価され、第十六回MOA岡田茂吉賞 工芸部

門大賞を受賞した。

◆増村紀郎教授が重要無形文化財「髹漆」の保持者に認定

七月十八日、文化庁文化審議会の答申があり、増村紀郎教授（工芸科）が、重要無形文化財「髹漆（きゅうしつ）」の保持者に認定されることとなった。

「髹漆」とは、漆塗を主とする漆芸技法のことで、増村教授は本学美術学部工芸科および大学院美術研究科で漆芸を専攻後、幅広い髹漆技法を駆使した精緻な作風で早くから高く評価されてきた。

運営

◆英文名称の変更

本学は、これまで英語表記において、Tokyo National University of Fine Arts and Musicを使用してきたが、平成二十年四月一日より、Tokyo University of the Arts(TUA)に変更した。

従来の美術と音楽の二学部、大学院二研究科体制から、映画、メディア映像、アニメーションを研究する大学院映像研究科も加わり新しい体制となることから、一層幅広い分野を教育研究する総合芸術大学として、名称を短く親しみやすいものに変更するもの。

◆スクエア・ピアノ修復完成返還式

大学美術館エントランスホールにて、チャタリング社製スクエア・ピアノ修復完成返還式が行われた。

このピアノは、一八七九年に文部省がアメリカから購入したピアノ十数台のうちの一台中、日本の洋楽教育の黎明期に使用されていたものと考えられている。破損した状態のまま大学美術館内に保管されていたものを、社団法人日本ピアノ調律師協会の厚意により五年がかりで復元修理され、往時の響きがよみがえった。鍵盤や響板など残存するものはできるだけ使用し、また、脚、屋根、譜面台など紛失した部品はオリジナルに近いものを新たに制作して復元されたスクエア・

ピアノ。返還式では、「先人が練習した楽器がよみがえり、感慨深い」と話す渡邊健二副学長の演奏により、実際にその音色が披露された。



◆平成十九年度卒業式「いい日旅立ちに乾杯」

三月二十五日、奏楽堂にて平成十九年度卒業式が挙行された。今年の卒業式は、器楽科教員による奏楽で幻想的に幕を開け、学長式辞では、邦楽科教員及び学生が力強い尺八を奏でるなか、宮田亮平学長が、古代中国の金文に表れた「慈」という文字を縦横約二メートルの特製パネルに揮毫して会場を大いに沸かせ、豊かな人間性を育むよう卒業生を激励した。



◆映像研究科映画専攻修了制作展

三月二十九日から三十日まで、横浜校地馬車道校舎において、大学院映像研究科映画専攻第二期生の修了制作作品が上映された。二年間の集大成である学生映画の領域をはるかに超えた六作品が上映され、当日は大勢の観客のなか、盛況のうちに閉幕した。

◆平成二十年度入学式

四月十日、奏楽堂にて平成二十年度入

横浜の映像研究科にアニメーション専攻が設置され、今年度4月よりスタートした。拠点の万国橋校舎は赤レンガ倉庫に近く、横浜らしき漂う皆がうらやむ環境だ。今回着任された立体アニメーション領域の伊藤有壺先生に先日話を聞く機会があったが、「とても順調で、充実している」とのこと。新しい藝大の顔として頼もしかった。

アニメーション専攻の教員座談会の中で特に印象深かったのは、批評というものが衰退してしまったことについて憂いている点だ。作品の「紹介はあるけど批評はない」(出口教授)昨今の状況は、何も新領域のアニメーションに限ったことではない。すべての芸術分野が批評なき“他人事”状態に陥っている。批評こそ創造の肥やしであると同時に、最も重要な情報交差であることを再認識しなければ、そう強く感じた。

藝大通信編集長
長濱雅彦

展覧会・演奏会の最新情報は、東京藝術大学公式Webサイト (<http://www.geidai.ac.jp>) をご覧ください。

展覧会についてのお問い合わせ
東京藝術大学大学美術館 Tel. 050-5525-2200
NTTハローダイヤル Tel. 050-5777-8600

演奏会についてのお問い合わせ
東京藝術大学大学音楽学部演奏企画室
Tel. 050-5525-2300

演奏会チケットの取り扱い
藝大アートプラザ Tel. 050-5525-2102
ヴォートル・チケットセンター
Tel. 03-5355-1280
チケットぴあ Tel. 0570-02-0990
東京文化会館チケットサービス
Tel. 03-5815-5452

藝大アートプラザのご案内
(株)藝大BioN(ピオン)
Tel. 050-5525-2102
Fax 050-5525-2486

◆フィラデルフィア管弦楽団員が附属音楽高等学校へ来校
五月二十二日、公演のため来日したア



◆油絵具「油一/YUICHI」全国販売へ
産学連携による研究成果を世に問う試みとして、本学が初めて商品化した油絵具「油一/YUICHI」の発売から一年。これまで藝大アートプラザでのみ販売されていた「油一/YUICHI」が、五月より全国販売された。

◆宙(そら)へー学長と語ろうトーク&コンサート
五月三十一日、第三回「学長と語ろうトーク&コンサート」が、ゲストにJAXA宇宙飛行士の向井千秋氏を招いて開催された。
第一部は、宮田学長の「宇宙飛行という未知なる体験をされた向井さんのお話を聞きながら、私たちがその感動を共有したい」という言葉が始まり、向井氏の「宇宙では、天女のように舞った」という無重力空間のことや、「地上に降り立



メリカ・フィラデルフィア管弦楽団のメンバーが、音楽学部附属音楽高等学校を訪れ、生徒たちと交流会を行った。
世界有数のオーケストラである同楽団メンバーの熱のこもった指導に、生徒たちは真剣に耳を傾け、予定の時間をはるかに超える充実した交流会となった。

◆奏楽堂で「らくごペラ」
七月六日、奏楽堂で恒例となった「藝大とあそぼう(オーケストラの逆襲2)〜オペラ星からの使者〜」演奏会が開か



ったときに重力があることを実感できたことが一番印象的だった」との体験談に、感動を共有した会場からは盛大な拍手が送られた。
休憩を挟んだ第二部コンサートでは、向井氏のリクエストによりW.A.モーツァルト交響曲第四十一番《ジュピター》、G.ホルスト組曲《惑星》から木星(ジュピター)が音楽学部学生オーケストラによって演奏され、参加者を創達の宇宙空間へと誘った。
コンサート終了後、プログラムにはないサブライズ企画として、奏楽堂に集ったすべての人々が《故郷》を合唱し、盛況のうちに終了した。



れた。
この「藝大とあそぼう」は、生の演奏に初めて接する子どもたちに、音楽との楽しい出会いの場を提供して、少しでも音楽に興味を持ってもらいたいと願う試みの一つ。
コンサートは、ストリング王国のワイオリノ王とアルパ姫の結婚式のお祝いの品として、オペラ星から贈られた美しいアンドロイド(オランパトラ)と、やはりオペラ星からやってきた謎の吟遊詩人(タンホイッサ)をめぐる物語を軸に落語仕立てで進められ、上方落語界のホープ桂小米朝師匠が語り手とワイオリノ王を演じた。
小米朝師匠はこれまでも各地でオーケストラと競演し、オペラと上方落語とを合体させた「らくごペラ」に取り組んできたが、本公演もまさに落語とオペラのアリアが渾然一体となったステージとなつた。

◆藝大フレンズ加入者状況
加入者数 平成二十七年七月三十一日現在
賛助フレンズ 個人一四八名 法人六団体
特別賛助フレンズ 個人二四名
◆今年度上半期に開催された主な展覧会・演奏会記録
大学美術館
芸大コレクション展
会期 四月十日〜七月二十一日
入場者数 約六万三千二百五十五名
パウハウス・デッサン展
会期 四月二十六日〜七月二十一日
入場者数 約八万三千八百九十八名
奏楽堂
第三回 東京藝術大学奏楽堂企画 学内公募最優秀企画 国撃タレテ響キ在リ
開催日 三月十五日
入場者数 五六九名
薬師寺一三〇〇年の響き
開催日 四月二十六日、二十七日
入場者数 九一〇、九二一名
藝大とあそぼう(オーケストラの逆襲2)〜オペラ星からの使者〜
開催日 七月六日
入場者数 七〇一名